

■阿蘇鉄矢 石工, 大工。岩永三五郎を支えて, 石造アーチ橋の築造に取り組み, 大工としても高く評価された。

あそてつや

宣長没・・・1801＝ 薩摩国川内平佐で, 郷士阿蘇政直の二男に生まれる。名は矢次石衛門政辰, 通称が鉄矢。

・・・・・・1810＝ 9歳 :
小さい頃より細工物に長け,

水野忠成老中1818＝17歳 :

群書類従完結1819＝18歳 :

大工で身を立てることを志し,
蝦夷地直轄終1821＝20歳 : この頃, 鹿兒島に出て修業し, 名を知られるようになる。

シボク事件・1828＝27歳 : 調所広郷らの天保の改革が始まり,

諸宮繕工事の進捗を図るため藩内外の人材の登用が図られていたことから,

高島砲術・・・1834＝33歳 : *藩の御用大工に取り立てられ,

滑稽+人情本 1835＝34歳 : 大工頭となった。

大塩平八郎乱1837＝36歳 :

治水, 干拓, 埋立はじめ, 道路, 橋梁を整備し経済基盤の確立をはかるため,
菘社の獄・・・1839＝38歳 : 藩は, 肥後国から岩永三五郎を招聘することになるが, 海老原清熙の命を受け三五郎に事を伝えに出向いたとも云われる。以後10年間, 岩永三五郎と共に藩内各地で土木事業に係わることになる。海老原清熙の記述からは余所者の三五郎にとって鉄矢は片腕以上の存在であったことが伺われる。

勅進帳初演・1840＝39歳 : 孝行橋, 行屋下橋, 蛭子下橋, 潮見橋, 境橋, 大手橋, 山下橋, 堀之面5石橋, 祇園ノ洲埋立,

天保改革始・1841＝40歳 : 三五郎波止場新橋, 吉野橋, 殿様橋,

天保改革弾圧1842＝41歳 : 永安橋, 戸柱橋, 黒甚原橋, 一ツ橋, 大乘院橋, 稲荷橋, 稲荷川改修, 甲突川改修, 川内川開削,

順天堂始・・・1843＝42歳 : 東市来捕田堰, 神子川さらえ, 新上橋着手,

天保改革終・1844＝43歳 : 妹背橋着工, 加世田大井手堰,

阿部正弘首座1845＝44歳 : 湊橋, 二月田橋, 五間橋, 新上橋完成。

孝明天皇・・・1846＝45歳 : 妹背橋完成。西田橋, 仏性橋, 水ノ手橋, 新波止場,

・・・・・・1847＝46歳 : 高麗橋留入,

・・・・・・1848＝47歳 : めくみ橋, 武之橋, 河頭太鼓橋, 上原橋, 新田八幡宮着工, 八間川の工事始まる。

北斎没・・・1849＝48歳 : 洗川落, 八間川堤防工事に続く江ノ口橋を最後に, 岩永三五郎は熊本八代に戻るが, 自らは江ノ口橋の建設と並行して, 新田八幡宮の造営に当たり,

国定忠治磔・1850＝49歳 : 新田八幡宮が竣工。

ペリー来航・1853＝50歳 :

開国開港・・・1854＝53歳 : 安政の大地震では, 江戸高輪藩邸を修復,

安政大地震・1855＝54歳 : *他藩にさきがけて完了, その技量は江戸中で評判になったといわれ, 水戸藩の仲介で, 幕府から, 前年炎上した京都御所の造営工事を委嘱されることになる。

五ヶ国条約・1858＝57歳 : 鹿兒島に戻り,

桜田門外変・1860＝59歳 : 天辰三堂川石橋に携わり, 水神碑を建立する。兼喜神社に石灯籠を寄進。

遣欧使節・・・1861＝60歳 : 江ノ口橋に水神碑を建立。

禁門の変・・・1864＝63歳 :

明治維新・・・1868＝67歳 :

維新で, 大工頭の第一線を引退したものとされるが,

明治6年政変 1873＝72歳 :

佐賀の乱・・・1874＝73歳 : *県令大山綱良より川内川に架橋の命令が下り,

初の民間工場1875＝74歳 : 竣工(初代太平橋)。

西南戦争・・・1877＝76歳 : 西南の役の戦禍により, 鹿兒島の上町若小路の邸を焼かれ, 郷里川内の平佐に帰る。太平橋も, 西南の役の際, 焼き落とされたが,

・・・・・・1880＝79歳 : この頃, *指揮して修理, 2代目太平橋となるも,

内閣発足・・・1885＝84歳 : 洪水で流失。

帝国大学始・1886＝85歳 : 失意のなか, 没した。

海老原清熙による「薩摩天保 以後財政改革顛末書」には阿蘇鉄矢の勤勉さ, 清廉さが記されている。昭和3年の昭和天皇の即位の大礼に当たり生前の功を賞して、従五位に叙された。